

【資本論（Kindle漫画本）レビュー】

毎日出勤するために住む家の家賃・
明日も継続して出社するための食
費・ストレス発散の飲み代・休暇を
楽しむための服代。これらは全部
「給料」という名の**労働力の再生産
費**

ってことよ。

これ意味わかったら結構エグい。
中学生の段階で知っておきたかったって思う。

レンガです。

今回は超推薦書籍レビュー。
漫画でわかる『資本論』。

漫画本のレビューする前に・・・

僕は月給23万円の労働者でした。
賞与なし、残業代なし、歩合なし、交通費だけあり。

このとき既に20代なのに何も考えてなかった。

今思うとハッキリ言って遅い。

何が遅いって、
ルールを知ることが。

資本主義社会で生きているのが当たり前すぎて、
そもそもの一番外の大枠の構造を理解していなかった。

**まず労働者である限り、
絶対に金持ちにはなれない。**

構造的に無理だということがわかる。
月給23万円であろうが月給45万円であろうが関係ない。

例えば、僕の場合だと30歳になる前に辞めた企業の社長のN社長。

N社長はオーナー経営者（サラリーマン経営者ではないということ）だったから資本家でもある。

僕は月に23万円でN社長に労働力という商品売り、N社長は僕の労働力という商品を月に23万円で買っていたということだ。

ここでN社長は23万円で僕を1日10時間以上働かせて「ブラック企業」だとか批判されがちなんだけど、焦点をあてたいのはそこではない。

この23万円で、

- ・ 明日出勤するために住む家賃
- ・ 明日も元気に出社して働くための食費
- ・ 明日も出社するために精神的回復のための飲み代
- ・ 明日も元気に出社するための休暇の服代、娯楽費

を賄っていることになる。

資本論では労働力を商品と見なすけど、
じゃあその労働力という名の原材料は何か？

というと、

体力（健康）や精神力

が労働力の原材料になる。

つまり、

「一杯やって明日からまた頑張るか」という癒やしや、

「GWの帰省ラッシュがはじまりました」というという現象ですら、

明日の労働力のための体力や精神力を再生するためにやっている行為になる。

よって、

僕の月給23万円は労働力の対価のように見えて、
実は**明日の労働のための再生産費だった**ということ。

さらに、例えば、

僕はこの23万円の中で更に技術本を買って勉強したり、勉強会へ参加したりしていた。

そうすると23万円は変わらないけど、
労働者である僕のスキルは上がる。

そのスキルは勤務先の社内の生産として活かされる。

資本家として同じ賃金で生産力が上がるのはありがたい。

他にも例えば、

休日なんだけど

- ・頭の中では半日以上クライアントのことを考えている

休日なんだけど

- ・今やっているプロジェクトのために調べ物をしている

とかね。

仕事ができる社員ほど、

そんなことをしたりしているよね？

そういえばこの間、僕の読者さんで年間1億円以上売っている営業マンとしゃべってたんだけど、

やっぱり御本人曰く、

「私生活0仕事120%の仕事マシーンと化してやっと手に入れた数字」と言っていた。

もうこれ体力も精神力もすべてを使い切る全身全霊ですよ
ね。

彼みたいなトップセールスマンだからこそ、

それだけ神経すり減らして、

- ・トップ営業マンたる服装などの身だしなみ、
- ・信用を勝ち取るための交際費、
- ・ストレス解消のための費用

という明日の労働のための再生産費がかかる。
それで年たったの1000万円です。
給料が。

なので御本人曰く、
自主的に社内で降格させてもらったそう。

体力も精神力も全てのエネルギーを使い切っているのに、
当たり前だけど自分のビジネスをするパワーなんか残って
ない。

資本家はいかに賃金はそのままで、
労働者として生産性を上げてくれて、
賃金以上に生産をしてくれかを期待している。

これをマルクス資本論では「**剰余価値**」と呼ぶ。

この剰余価値が増えれば増えるほど、
資本家は富を蓄積することになる。

なので、

資本家としてはありがたや～

もっとやってくれーい
ってことよ。

これが資本家による労働者からの搾取。
剰余価値を搾り取っている構造ってわけ。

つまり、

資本家は富を蓄積して、
労働者は貧困を蓄積する構造になっている。

労働者は明日元気に労働してもらうための再生産費しか与えられないからね。

それが労働者である限り絶対に金持ちになれない理由だ。

けど、ここで僕は資本家はあくどいんだー！
みたいな感情の話をしたいのではない。

僕はむしろ自由に競争して、
自分の利益を最優先するからこそ、

他者を客観的に評価したり他者から客観的に評価されたり
することで社会が成長するので良いシステムだと思う。
そもそも最初から格差がつく仕組み、
そういう構造になっているということ。

でも、そんな社会システムだったらさ、
労働者たちで暴動とか起こるんじゃないか？

って思うよね。

それが起こらないように、
労働組合ができたり簡単に解雇できないように、
労働者を守る仕組みが整ってきました。
安心して終身雇用してくれる。

(実際は、社会主義が失敗する事例しかないので資本主義
社のルールで国としてはやっていきたいから)

これが僕の親の世代の辺りまでです。

いい学校に行っていい企業に勤めろってやつね。

資本家が主役の資本主義社会の中でも、

労働者が結構良い暮らしができた世代。

あれはたとえ労働者であっても、
そこそこ良い暮らしするための教訓よね。

じゃあ今はどうか？

もちろん根本的なルールは変わってない。

ルールは変わってないけど、
爆発的にチャンスが増えた。
圧倒的に増えた。

ここでは本題じゃないので、
サラッとだけ触れておくけど、

まず1つは株式の扱いが超絶簡単になったこと。
これはむっちゃでかい。

僕は持株100%オーナーの経営者でもあり、
他社の株も持っている。

こんなもんは20年前に簡単にできることではなかった。

ここで詳細は書かないけど、
株式の扱い方を理解できると爆発的にそして逆転的に金持ちになれるチャンスが圧倒的に増える。

言ってしまうと、
その可能性が誰にでもあるということ。

けど、それはある程度資金がないとダメなんじゃない？
と思うと思う。

けど、これすらも常識がひっくり返るぐらい変わってしまった。

それが誰もがメディアを所有できるという時代であるということ。

SNSもそうだし、
ブログとかもそうだし、
YouTubeもそう。

主婦とかで毎月月収200万円とかいってしまうのが今の時代。

こんなことは昔はありえなかった。

メディアを持っているのは、
読売、朝日、毎日、産経、日経を中心に、
他の一部の通信社とか地方紙とか社会のごく少数の機関だけが持てるものだった。

これがもう1つの資本主義のルールは変わってないけど、
爆発的にチャンスが増えた理由。

このパワーはとんでもなくエグい。

誰でもが短期間に資本家としての活動ができてしまう、
資本主義ルールの中での逆転が簡単になってしまった。

地方では後継者がいなくて、
数百万程度で事業が売られていて、
新卒上がりの25歳の子が勤務先を辞めてその事業を買収して社長兼オーナーとしてやっていたりする。

他にも例えば、
とんでもなく一気に金持ちになるのが予測できるパターン
で言うと、

プログラミングスクールを運営しているD社の代表は有名な
YouTuberとして自分のメディアを持っている。

おそらくIPOするんだらうけど（これは2020年10月時点の
ただの僕の憶測です、というか買いたいですw）、

そうなると簡単に言うと、
現段階で1億円ぐらいの価値の会社が、
100億円ぐらいの価値に一気に跳ね上がることになる。

仮に代表の持株が半分の50%だったとしても、
上場後には50億円が個人資産、売って20%の税金を引いて
も40億円が自由に使えるお金みたいな計算ができる。

さらに、自分の個人メディアの影響力がデカすぎて、
1つの動画や1つのテキストコンテンツで何千万円とか何億
円が動くことになる。

これは実ほとんどもないことで。
詳しく書きたいけど今回の本題ではないので。

今の時代だからこそその自分の所有するメディアを活かすパターンと昔からある会社を成長させて売るパターンを掛け合わせるっていうもうこれは相当エグい錬金術ですわ

しかもそれはぜんぜん他人ごとでもない。

数年前まで貯金ゼロの労働者だった人間が、
たった数年で資本家として資本主義の主役に躍り出ることができてしまうのが今の時代。

年齢とかも関係ない。

以前は年齢が上の方が、
ノウハウや情報が集約されていたけど、
今15歳であろうが56歳であろうが、
誰でもが欲しい情報にアクセスできるようになった。

これは18世紀のイギリスの産業革命のときにできた資本主義社会からは全く考えられないことが起こっている。

もうこうなってくると、
どういうところで格差がつくかって、

情報を取りに行くみたいな、
やるかやらないかだけの違いになってくる。

20歳でバチクソ資産を形成している人間もいれば、
20歳で時給850円で労働者をしている人間もいる。

これは僕は「平等な格差」っていうか、
ある意味すごくスピード感を持って誰にでも金持ちになる
チャンスがある時代なんじゃないかなーと思う。

僕は今まで見たことない世界を見続けたいから金持ちにな
りたいと思って活動しているけど、

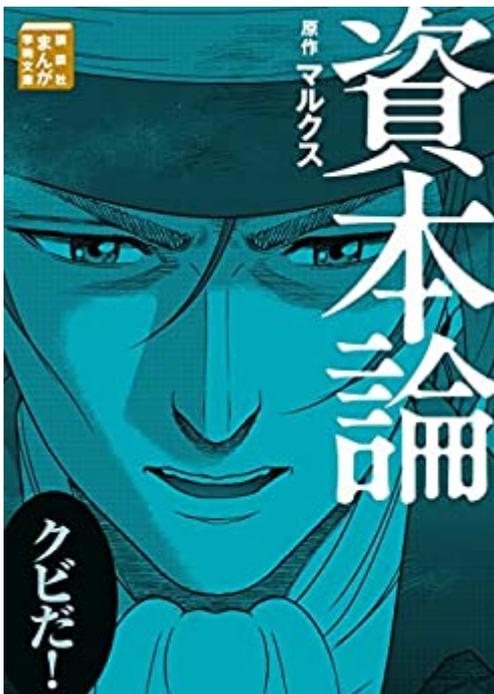
僕の[メールストーリー](#)とか読む前に、
まずルールブックとして資本主義社会で資本家と労働者の
関係を知ろうよっちゅー話です。

そのために、推薦図書として、
この『[資本論 \(まんが学術文庫\) \(日本語\)](#)』をまず読んで労
働力の再生産費のこととか知った方がいい。

ちなみに僕自身はこういう感覚になるのが10年～15年ぐらい遅かったと後悔してます。

けど、過ぎた時間はもうもう戻ってこないの、知るのが遅かった悔しさをバネにしていくしかないと思っています。

748円です。



<https://amzn.to/3lHH2fS>

大事なのは、
「へ～」って単に知っている状態じゃなくて、

「これはやらなきゃヤバイぞ」って臨場感がある状態になることなんで。

ってことで、

『[資本論 \(まんが学術文庫\) \(日本語\)](#)』のレビューでした。

レンガ

追伸：

ちなみにこういう話をすると、

「じゃあ今すぐ労働者を辞めて資本家になったらいいんですね！！！！！！！」

みたいな短絡的なゼロ100思考する人がすぐ出てくるんですが、そうではないんで気をつけてください。

別に労働者をしながら経営者もできるし、オーナー専業ではなく投資しながら経営者やっている人は大半だし、今は労働者でも資本家も兼ねられるしそのへんはグラデーションなんで。

しょーもない理解をされても困るので一応。